

# 人と社会に豊かなコミュニケーション文化を創造する グローバル先進企業を実現

昨年12月パリで国連気候変動枠組条約第21回締約国会議、いわゆるCOP21が開催されました。COP21では、1997年COP3にて先進国にCO<sub>2</sub>削減を求めた京都議定書の対応期限である2020年以降の、新しい温暖化対策の枠組みについて議論され、国際社会は合意に達しました。環境対応は地球規模で進められることが、もはや当たり前になったままです。当社は文具メーカーとして、製品を通じて地球環境への貢献はもちろん、事業活動を通じて環境負荷の低減に取り組んでいます。

「シャチハタは創業当初からモノを大切に、環境に配慮したモノづくりに取り組んで参りました。1925年（大正14年）の創業時に発

売した「万年スタンプ台」は、長期間の使用を可能にするため、空气中の水分を吸収するインキを開発して作られました。また朱肉やXスタンプも、インキを補充することで長期間繰り返しお使いいただける製品です。「使い捨てではないモノづくり」の精神は、今も全ての製品において受け継がれております。例えば、2012年より販売している「ケズリキャップ」シリーズはペットボトル用のキャップ型鉛筆削りです。「削りくずを捨てる時にくず入れからあふれて部屋を汚すことがある」という、子どもを持つ母親の悩みを元に誕生した商品で、飲み終わったペットボトルに取り付ける鉛筆削りなので、どこでも削りくずを

たっぷりためておいて、一度にまとめて捨てることのできる商品で、ここでも「使い捨てでないモノづくり」の精神はいかされております。さらに近年は、「製品の製造時に使用するエネルギーの削減」「製品に含まれる化学物質の把握・管理」も、モノづくりに必要不可欠な要素となって参りました。使用エネルギーの削減は、地球温暖化防止のための温室効果ガス削減、特にCO<sub>2</sub>の削減のためにあらゆる企業が取り組まねばならない課題です。またもう一方で、製品に重金属等の有害な物質が含まれないよう、材料や製造工程を適切に管理することも、製品を安心・安全にお使いいただく上で忘れてはならない配慮です。また、製品の一生

を通じて環境負荷低減を図るため、ライフサイクルステージ毎の環境負荷の見える化手法を構築し、環境調和型製品の開発に努めています。環境と一言でいっても環境負荷は目に見えないものが大半です。リサイクル推進等による環境負荷の「減らす化」だけではなく、その効果を定量化するためのライフサイクルアセスメント(LCA(Life Cycle Assessment))を実践し、環境負荷の「見える化」に努めています。

商品の提供による社会への貢献と、環境への配慮による貢献の2つを両輪とし、今後もシャチハタは100年企業を目指して歩みを進めて参りますので、ご支援のほどお願い申し上げます。



代表取締役社長  
**舟橋 正剛**  
Masayoshi Funahashi



## 環境活動のハイライト

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
CO <sub>2</sub> 排出量 (t)		6,170	5,418	5,039	4,757	4,610
廃棄物総排出量 (t)		1,152	957	985	999	1,024
廃棄物最終処分量 (t)		59	50	69	76	26
廃棄物総リサイクル率 (一般廃棄物を含む) (%)		95	95	93	92	97
再生材利用率	原材料プラスチック (%)	63	66	67	64	64
	洗浄用アルコール (%)	100	100	100	100	100
環境対応商品売上比率 (%)		59	58	62	62	60
PRTR法対象 化学物質年間取扱量 (t)	エチレングリコールモノメチルエーテル	0.058	0.0	0.0	0.040	0.0
	エチレングリコールモノエチルエーテル	0.388	0.191	0.193	1.009	0.437
	キシレン	0.414	0.284	0.373	0.402	0.412

## 2015年度 シャチハタのマテリアルバランス (INPUT・OUTPUT図)

